

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104241
法人名	株式会社クロスサービス
事業所名	グループホームむく
所在地	愛媛県松山市西野町甲434-1
自己評価作成日	平成24年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月8日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者が思っていること感じていることについて、気づこうとする努力をスタッフ一同が行っています。一人一人のスタッフが、ご利用者と向き合い、ご家族と向き合い、自分と向き合うことで何が大切であるかを日々振り返りたいです。『むく』という場所で、ご利用者が自然と安心して、ご自分の住まいとして過ごせるような環境となることを目指して努めていきたいと思っております。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●ご本人の希望で、以前住んでおられた場所へ出かけた際には、近所の方とお会いしてお話が弾むような場面もみられた。利用者がご自宅に戻って泊まる場合、職員は、ご家族にお薬のことや介助方法等も伝えて、ご家族、利用者が安心して過ごせるよう支援されている。利用者の以前行っていた趣味を踏まえて、お花を生けてもらうような場面を作ったり、職員とマージャンを楽しむ機会を作ったり、テレビで競馬を観戦する等して、お好きなことが続けられるような支援に取り組まれている。ご家族の希望で葬儀や結婚式にご本人が出席する際には、職員も付き添って参列する場合もある。遠方のご家族との電話や手紙のやり取りができるよう支援されており、利用者のキーパーソン以外にも、ご本人にとって大切なご家族には、「むく便り」をお送りしたり、写真を同封されている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームむく

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)  
氏名 越智 哲哉

評価完了日 平成24年5月31日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<b>(自己評価)</b> ミーティングなどで理念の見直しや勉強会などを年に一回は行っています。理念の用紙を個別ファイルに一人一人の職員が保管し、出入り口(玄関)に掲載することで、常に目にすることが出来、外部の方にも分かるようにしています。 理念の文章が長い為、丸暗記は難しいがポイントになるキーワードをスタッフ皆が確認しています。	
			<b>(外部評価)</b> 事業所の方針に沿い、「利用者の思いを大切に、利用者、家族、地域の方々との自然体で温かい気持ちになれるような関係づくり」を目指して、「何を大切にするか」をすべての職員で出し合い、各ユニットごとに理念を作成されている。職員は、自分たちで作成したユニット理念を日々のケアの拠り所として、実践につなげておられる。管理者は今後、ご家族や地域の方にも理念を知っていただけよう、「通信」や「便り」にも掲載していきたいと話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<b>(自己評価)</b> 近所の散歩や買い物途中で近隣の方にお会いする事が多く、その際のご挨拶や世間話を大切にしています。 行事では、町内の方をお誘いしてのバイクやクリスマス会やお餅つきなど、準備から参加してもらい行事も盛り込む等してご利用者と地域の方がつながりを持てるような工夫を行っています。 日常的な事から行事ごとまで、二か月に一回広報誌を発行しています。	
			<b>(外部評価)</b> 近隣の農家の方からお米を購入しておられ、近所の方からは野菜をいただくこともよくある。事業所では、手作りしたおやつをおすそ分けされたり、又、七夕や餅つき等の季節の行事時にはお誘いしておつきあいをされており、利用者は近所の方達とかかわることを楽しみにされている。クリスマスの際、地域の子供会の子も達が来てくれて、利用者がサンタ役になって、子ども達にお菓子をプレゼントされた。ご本人はうれしい気持ちになり、涙がこぼれるような場面もみられたようだ。地域の方に向けて発行している「むく通信」は、利用者の暮らしぶりや職員の紹介、運営推進会議について等、カラー写真を採り入れ発信されており、職員は、近所のお宅を訪問して手渡しされている。これまで1年に2回配布されていたが、地域の方達に事業所のことをさらに知っていただきたい思いを込めて、2ヶ月に1回発行し配布されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<b>(自己評価)</b> 運営推進会議を活用して、認知症についての勉強会を行っています。昨年は、高知県で行われた四国フォーラムの実践発表を会議の場で行い、地域の方に認知症の方の過ごし方を通して支援の方法についてお伝えする事が出来ました。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 広報誌を使って近況の報告を行っています。その時の議題に応じて、松山市の職員さんや地域包括支援センターの職員さんに近隣の事業所の状況などお聞きしながらご意見を頂きサービスの向上に活かしながら努めています。(感染予防、防災対策、地域交流など)	管理者は、さらに実りの多い会議となるよう、「今年度からは、現場のリーダー職員に司会進行や議題を提案してもらい、会議の年間計画を作成したい」と話しておられた。又、「議題内容によって地域の方の参加もさらに働きかけていきたい」とも考えておられ、今後さらに会議を活かして、地域の方とのつきあいを深められたり、協力し合える関係作りに取り組んでいかれてほしい。
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者・ご家族・民生委員・市の担当職員・地域包括支援センターの方等が出席されている。「むく通信」にて近況報告をされたり、「おやつ作りと試食会」「手洗い実習」「地域資源マップ作り」「避難訓練」等、毎回議題に沿って、参加者と一緒に取り組み、意見や感想等をうかがっておられる。昨年度の「認知症について考える・四国フォーラム」時に、事業所が実践発表した内容を会議時にも発表され、ご家族からは、「ホームの職員、子供会、地域で支えてもらっていることがわかった」という感想をいただいた。ご家族には、運営推進会議の議事録を1年に1度お送りして、会議の内容や取り組みを報告されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事業所連絡会で行政の意向の把握に努め、運営推進会議で事業所の取り組みを積極的にお伝えするように努めています。以前、他の施設(遠方)から迷いながら久谷地区に用事で来られた高齢者の方の対応について、松山市の職員(ケースワーカー)さんと協力して解決に向けて取り組むことが出来ました。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの「認知症見守りネットワーク」の活動の一環で、系列事業所と協力して認知症啓発のための人形劇を作成された。運営推進会議時に披露されており、今後は、中学校等にも訪問して披露したいと考えておられた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人の研修会で一年に一回は身体拘束と虐待防止に関する項目があり、スタッフが順番に参加をしています。転倒などの事故が起こった際にも、対応策を即座に検討はしますが、安易にご利用者の行動の幅を制限する事が無いように注意しています。 身体拘束の事例は無く、玄関の施錠も夜間の防犯のみです(21時~7時)。	
			(外部評価) 身体拘束をしないことや職員が利用者へ、「～しましょう。というような、選択の余地がない言葉かけをしない」ということについて理解を深められるよう勉強会等を行っておられ、職員の意識統一に努めておられる。利用者がお好みに両ユニットを行き来できるような雰囲気作りにも取り組まれている。調査訪問時、利用者は職員と一緒に、庭に咲く花を摘みながら、散歩されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人の研修会で一年に一回は高齢者虐待についての項目があり、順番に参加をしています。また、『不適切なケア』という段階で職員一人一人が意識が持てるよう研修とミーティングを活かして勉強をしています。適切なケアについてもスタッフルームに掲載することで確認できる環境に努めています。日頃から皮膚の観察に努め、小さな傷や内出血でも申し送りをし、職員同士で声を掛けやすい環境作りに努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度を活用している方や、これから活用する方の事例を元に、ミーティング等を使って権利擁護の制度について学ぶ機会を設けています。事例を通して考える事で、誰が何に困っていて、制度を活用する事でどのように解決が図れるのかを視点に話し合いを行っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には、事前にご本人に面会を行い現在の状況を確認しています。その上で、出来る限りご自宅でご本人とご家族と事業所の三者で契約の説明が出来る環境作りに努めています。契約書の項目説明について、事例を交え分かり易くお伝えしています。また、事業所が出来ない事については、その背景も含めてしっかりお伝えしてご家族の納得が得られるよう努めています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の意見が言いやすいように、色々な立場の職員が関係を作れるように努めています(管理者・リーダー・担当者)。また、家族会や運営推進会議などでも率直なご意見が頂けるように、事業所からの問いかけに努めています。  (外部評価) 事業所は、利用者がその人らしい暮らしを続けられるよう、利用者とともに支えるご家族との関係作りに力を入れて取り組まれている。ご家族が、どの職員に相談されても、お返事ができるよう、ミーティングや申し送り時等には、すべての利用者の情報を共有できるよう取り組まれている。管理者は、日頃から、「ご本人にとってどうすることがより良い生活につながるか」という視点でご家族とお話をされており、暮らしやケアについてご家族の意向や意見等をうかがっておられる。「家族会」は、年2回、お花見や芋炊き等の行事と合わせて開催されており、ご家族だけで交流できるような時間を設けておられる。事業所が発行する「むく便り」は、利用者のホームでの暮らしの様子や楽しんでいる様子の写真も載せておられ、ご家族の安心につながっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) ミーティングを利用して、現在の法人の運営について管理者から報告を行い、職員一人一人が確認をしたり、意見を言ったり出来るような環境作りに努めています。また、人事考課(年に4回)とOJT(年に4回)も活用しながら一人一人の意見の反映に努めています。</p> <p>(外部評価) 今回の自己評価は、ユニットごとに2名の「外部評価委員」が中心となり、すべての職員の意見をまとめ作成された。法人や管理者は、職員への教育や研修の重要性を認識されており、職員個別に研修計画を作成し、経験や習熟度に応じて外部・内部研修をすすめておられる。管理者は、「職員一人ひとりが、目的意識を持って働けるよう、職場環境の整備に努力していることが、昨年度の離職を最小限に抑えられたことにつながったのではないかと話されていた。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) キャリアパスの仕組みをしっかりと明文化する事で、職員一人一人が自分がどの役割で働いているのかが確認できるようにしています。人事考課の面談を活用して個々の目標を作成すると共に、メンタルヘルス委員(管理者)が日頃のストレスチェックと労働環境の確認に努めています。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 人事考課のタイミングで一人一人の職員が年間の目標を作成しています。その目標に向かって日々のトレーニングをリーダー管理者と行い、三ヶ月に一回OJTシートで確認を行っています。個々の研修計画に基づき法人の研修、事業所の研修、外部研修に参加しています。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>(自己評価) 事業所連絡会やグループホーム連絡会に積極的に参加しております。また、昨年度に管理者は、石井・久谷地区のグループホーム連絡会の副会長も経験させてもらい地域のグループホームと協力して地域資源マップの作成等、サービスの質の向上に向けて取り組みを行っています。 また、同法人の地域密着型でQOC委員会という勉強会を行ったり、訪問看護師との医療連携会議を行いご利用者の生活の質を向上させるための取り組みを行っています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<b>(自己評価)</b> ご利用開始前にご本人やご家族との面会を行い、困っている事等ニーズの確認を行っています。ご利用者にも当事業所の見学に来て頂き現在の不安な事や要望についてお聞きした上で入居の手続きに移れるよう配慮しています。 入居初期に不安で居室で休めない方には、夜勤スタッフの近くで休めるようにベッドを用意する事もある。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<b>(自己評価)</b> ご契約時に、困っている事をまずお聞きするようにしています。利用開始後は、面会時に困っている事や不安な事をお聞きするように努め、家族構成や子供さんの状況や住んでいる所など、失礼がない範囲で情報交換が出来たと思います。 お互いの状況を知る事で、徐々に困っている事や不安な事が明確になり解決に向かっていていると思います。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<b>(自己評価)</b> ご本人の訴えとご家族の訴えをまずお聞きするようにしています。困りごとに関して、多くあるようであれば、まずは何から支援が必要であるかをスタッフ間で話し合っています。 医療に関する相談ごとは主治医や訪問看護師とも相談しながら解決に向かって取り組んでいます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<b>(自己評価)</b> 一緒に洗濯物干しを行ったり、台所仕事(調理や洗い物など)を行ったりされています。出来る事や出来ない事、出来そうなこと(少しお手伝いをすれば出来る事)を見極めて、さり気ない支援に努めています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<b>(自己評価)</b> 面会時になるべく居室でご家族だけの空間を楽しんで頂いたり、時にはフロアで皆さんと楽しく過ごす時間を持ったりして頂いています。二か月に一回は経過の報告を書面でお出ししています。 天気の良い日には、ご本人とご家族だけで近所を散歩されたり、ドライブやお食事に行かれる事もありました。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<b>(自己評価)</b> ご本人やご家族から、馴染みの場所や人についてお聞きしています。職員と実際にドライブでその場所を訪れたり、友人に会えるように電話の連絡や訪問を行ったりしています。 テレビ番組やビデオを使って地元の歌やお祭りなどを一緒に楽しみ、話題作りを行っています。 <b>(外部評価)</b> ご本人の希望で、以前住んでおられた場所へ出かけた際には、近所の方とお会いしてお話が弾むような場面もみられた。利用者のご自宅に戻って泊まる場合、職員は、ご家族にお薬のことや介助方法等も伝えて、ご家族、利用者が安心して過ごせるよう支援されている。利用者の以前行っていた趣味を踏まえて、お花を生けてもらうような場面を作ったり、職員とマージャンを楽しむ機会を作ったり、テレビで競馬を観戦する等して、お好きなことが続けられるような支援に取り組まれている。ご家族の希望で葬儀や結婚式にご本人が出席する際には、職員も付き添って参列する場合もある。遠方のご家族との電話や手紙のやり取りができるよう支援されており、利用者のキーパーソン以外にも、ご本人にとって大切なご家族には、「むく便り」をお送りしたり、写真を同封されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士の関係作りが行えるように、コーヒータイトに各々の興味のある話題を提供したり、お互いの事が理解できるような橋渡しを行っています。そのために、場面によって座席を迎え合わせや並行にするなどの工夫をしたりしています。外出を橋渡しのきっかけ作りをする事もあります。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 行事にお誘いしたり、相談ごとに乗らせて頂く事がありました。いつでも気軽に立ち寄れる環境作りにも努めております。退所されたご家族さんがホームを訪ねて来られ、職員に向けてスピリチュアルな本を提供して頂く事もありました。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) まずは、ご本人に聞いたり選択してもらえよう努めています。意向の確認が困難な場合は、入居以前の生活をご家族にお聞きしたり、ご本人の表情を元に思いを知ろうとミーティング等で話し合いを行って、意向の把握に努めています。 (外部評価) 6ヶ月に1度の介護計画の見直しに合わせて、「基本情報シート」を見直し、生活歴や価値観、意向等の情報を蓄積し、職員間で共有して日々のケアにつなげておられる。車椅子を使用される利用者の姿勢が前のめりになって辛そうになり、移乗する際にも痛がられ、横になって休まれることが多くなってしまったため、ご家族に事業所でのご本人の様子を見ていただいたり、日頃の状態も詳しく説明しながら相談し、リクライニング式車椅子を使用するようになった事例があり、ご本人は楽な姿勢でみなと過ごせるようになった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 契約時に、ご本人の話しやご家族の情報を元に、これまでの暮らしについてフェイスシートにまとめるようにしています。その後も、都度趣味嗜好などこれまでの生活を会話などから情報収集シートを使ってスタッフ間で共有できるよう努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の記録は、個人別記録に毎時間記録しており、特に健康に関する記録は別の用紙(バイタル表)を用いている。センター方式のアセスメントや日頃の申し送りを使って心身の状態や有する力の把握に努めています。ウィークリー目標を作成し、それを朝と夕方の申し送りで振り返ることで日々の確認を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族が来られた際に、現状報告を経過シートを使って行っています(担当者以外も現状がお伝え出来るよう)。その報告の際に、意向が聞けるよう努め、ミーティング中のカンファレンスやQOC(ケアの質を考える)委員会の取り組みにも反映させながら介護計画の作成に活かしています。	
			(外部評価) 利用者個々の担当職員は、2ヶ月に1度、ご家族に経過記録をお見せしながら利用者の現況を説明されており、意見や要望をお聞きして介護計画に反映されている。センター方式の5つの視点に沿って「ケアプラン立案シート」で情報を収集し、利用者本位のケアが実践できるよう作成されている。又、「ウイークリーアクションプラン」を作成して、日々モニタリングを行い、毎週、評価されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録では、ご本人の訴えやその様子(客観的情報)とその背景、ご利用者の希望、スタッフの支援という項目に分けて毎時間確認を行っています。 日々の暮らしの中で特記事項となる事は、申し送りノートを活用し情報を共有したり、習慣の目標を作ってスタッフ間で日々確認するようにしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて、ご家族と一緒に、介護タクシーを使って外来通院して、医師へ情報を伝達するケースがあります。 また、重度化に伴って短期間ではあるが、活用すれば生活の幅が大きく広がるようなケースでは自費の福祉用具を提案させて頂いたケースもあります。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のスーパーで買い物をされています。地区の運動会や文化祭を楽しまれたり、職員が年に一度の井出掃除に参加して町内の方と交流を図りながら貢献する場面があります。 地域資源マップを作成し、地域の資源を見直したりもしています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 契約時に、ご家族による外来受診か往診医を選択して頂いています。事業所の指定はなく、ご家族の希望に合わせるよう努めているが、立地条件の問題で往診出来る医師が限られているのが現状です。その為、必ずご本人とご家族には医療についての希望をその都度、直接医師に伝えてもらうように調整を行っています。	
			(外部評価) 現在は、利用者全員が協力医の往診を受けておられ、1週間に1度診てもらっている。通院の際、ご家族が付き添われる場合であっても、利用者・ご家族の安心やその後の支援を検討する上で職員が同行されている。往診や通院の様子や結果は、「医療ノート」に書き留め、又、毎月、訪問看護師も交えた「医療連携会議」を行う等して、利用者個々が適切な医療を受けられるよう、仕組みを作っておられる。訪問歯科も受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) FAXやメール、電話といったツールを使って情報交換をしながら週に一回は、観てもらっています。その日のリーダーが気づきを伝えられるよう訓練を行っています。 また、月に一回医療連携会議を行い、各ユニットのリーダーと管理者と訪問看護師の担当者が集まって、情報提供で特に気をつける点や、観察のポイントなどを話合っています。この会議から車椅子の生活であった方が、リハビリの評価を受けて運動メニューを作成してもらい歩行器での移動が行えるようになりつつある事例もあります。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は、職員が時々面会に行って状況を確認したり、他のご利用者とお見舞いに行ってお本人を勇気づけられるように努めています。入院先の医師とも情報交換を行い、退院の時期を確認しています。退院前のカンファレンスを毎回行いホームへの復帰後の環境整備や課題についてご家族や主治医、訪問看護師と話し合いを持っています。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時や家族会のタイミングで事前に重度化についての事業所の出来る事と出来ない事の説明を行っています。その上で、ケースに応じて、ご本人ご家族と医療者を交えた話し合いを行い、ご希望に沿った対応を心掛けています。重度化のステージによってご本人もご家族も気持ちの変化する事を踏まえ、話し合いは一度に止まらず、状況の変化に合わせて都度確認するようにしています。	
			(外部評価) 利用契約時には、「重度化し看取りの必要性が生じた場合における対応指針」をご本人・ご家族にお見せしながら説明されている。現在、ほとんどの利用者・ご家族が、「事業所で最期まで過ごしたい」という希望を持っておられるようだ。ミーティングやカンファレンス時には、「医療連携会議」で話し合われた内容にも沿って、看取りの勉強をされている。この4年間で、5名の利用者が事業所で最期を迎えられており、「ご本人はどうしてほしいのか」ということを大切にしながら、ご家族とともに支援された。他の利用者もお見送りされて、通夜や葬儀に参列された利用者もある。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>(自己評価)</p> <p>救命救急の研修に年に一回、順番に参加をしています。急変の対応については、マニュアルをスタッフルームとフロアの電話の前に掲載して、いつでも確認が出来るようにしています。ヒヤリハットや事故報告の検討の際に、初期の対応を確認しています。また、食中毒の季節や、年末のお餅の誤嚥などが予想される時期には、事前に勉強会を行って応急の訓練を行っています。</p>	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>避難訓練を年に二回実施しており、その内一回は夜間想定で行っています。訓練は、実際の状況になるべく近い状況をイメージしながら緊張感を持てるような環境を大切にしています(運営推進会議で行うなど)。避難手順は、電話の上に分かり易いフローで掲載しており、昨年度からは、地震災害を想定した訓練を行い玄関には避難用具を設置し災害に備えております。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、消防署の指導の下、避難訓練を行った際には、会議出席者にも訓練に参加していただいた。消防署の方からは、地震の際には、「前方のため池が決壊することも考え、2階に避難すること」、水害時には、「隊列を組んで杖等で足場を確認しながら進むことが大切」等のアドバイスをいただいた。緊急連絡網には、近所の中で一番に駆け付けてくれることになっている民生委員の方や前民生委員の方にも入ってもらっている。非常持ち出し品として、寝袋・オムツ・軍手・ロウソク・2~3日分の食糧と水・自家発電機等を、玄関横の誰でも取り出しやすい場所に用意し、いざという時に備えておられる。職員は、救命救急法の講習を受講されている。</p>	職員は、地域の避難訓練に参加され、地域の方とともに災害時の訓練等に取り組みされた。そのような地域との活動をきっかけにして、今後は、地域の自主防災組織とも連携を図りながら、利用者・職員の安心安全につながるような取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>(自己評価)</p> <p>日常生活において、親しみを持ちつつも丁寧な言葉掛けに気をつけたり、スタッフの居室入室時にお声を掛ける事などを気をつけています。また、排泄時の羞恥心や、介助を受ける事による辛さに職員が気を配りながら声掛けを心掛けています。 これまでの生活について、職員が確認したり振り返る事で、再度ご利用者の尊厳について気が付ける様になっています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>食事や入浴等、日々の暮らしの中で、利用者ご自身で選択し決定できるような場面作りに努めておられる。調査訪問時、ご本人の希望で、居室で食事されている方がおられた。職員は、「利用者はともすれば、お世話になっていると思いがちなので、この気持ちから解放してあげて、安心して生活できるような心がけている」と話しておられた。又、「利用者一人ひとりの人となり、持っておられる力を尊重して、生きがいを持って生活できるよう支えていきたい」と話しておられ、調査訪問時の昼食の支度は、利用者ができることを自主的に行っているような様子もみられた。その時々に応じて、利用者同士の相性を考慮して、座席等についても気を配っておられる。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>(自己評価)</p> <p>会話の中で職員がご利用者の好みや思いを言って頂けるような話をしたり、受け答えが出来難い方には選択肢を狭める(どちらかにする等)事で、選んでもらったり表情から職員が判断する等して出来るだけご本人の希望が表現できる事を支援しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者が自分の希望を積極的に言えないケースでも、日頃の様子や会話などから、ご利用者の生活パターンを把握するように心掛けています。週間の目標を立てて、スタッフ間で共有する事で、出来るだけご利用者が自分の力を発揮したり安心して過ごせるように配慮しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご利用者が自分の希望を積極的に言えないケースでも、日頃の様子やご家族との話などを参考に、なるべくタンスの引き出しを開けて、どの服にするか選んで頂くようにしています 日々の整容は起床時に行い、その後は駒目に観察する事でご本人の自尊心が傷つけられるような状態が無いように気を配っています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者と一緒に、その日の気候や季節などの日常会話の延長で献立を考えています。スタッフは、冷蔵庫にある材料を確認したり同じメニューが続いていないか等を見てご利用者と一緒にごしらえや味見、片付けを行っています。 (外部評価) 職員は、利用者と一緒に食材の買い出しに出かけ、利用者の希望や好みを採り入れて食事作りをされている。事業所の菜園で収穫した季節の野菜も食卓に上っている。ご家族が送ってくださった料理本を見ながら、献立を決めたり、いただいた野菜の調理方法を調べて作ったりされている。調査訪問時、キュウリを刻む等、職員とともに昼食の下ごしらえに腕を振るっておられる利用者の様子が見られた。食卓には庭のお花が飾られ、職員の家族が手作りしてくださったランションマットを敷き、職員は利用者と同じテーブルを囲んで利用者と同じものを食べながら、介助されたり会話を交わし、ゆっくりとした食事時間となっていた。又、食事中はテレビを消し、BGMに懐かしい童謡が流れていた。お節料理や七草粥等の行事食や誕生日にケーキも手作りされたり、庭で焼肉パーティーを楽しまれることもある。一日の摂取カロリーは1300kcalを目安に、20品目の食材を使用できるよう努めておられる。利用者個々に合わせて、食材のつぶし具合や刻み具合にも気を付けておられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) なるべく多くの食材を使用し、栄養のバランスを考えています。また、月に一度体重測定と栄養計測を行う事で現在の食事が適正であるかをミーティングで検討しています。ご利用者のご希望や状態に応じてお粥やパン、刻みやミキサー食といった形態を検討し提供しています。水分摂取が摂り難い方は、ゼリーにするなど一日約1Lを目安に支援を行っています。 記録用紙は、個々人の物で分けており、一目で数日前からの摂取の変化が分かるようにしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) なるべく、ご自分で歯磨きや義歯の手入れが行えるように声掛けを行っています。出来ないところを職員がお手伝いをして、特に残留物が無いように歯磨きを行い、歯茎等に異常がないかの観察を気をつけています。必要に応じて舌ブラシを使ったり、口腔内に異変があれば往診の先生にも相談を行いながら支援を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p><b>(自己評価)</b></p> <p>一人一人の排泄をチェック表を元に把握します。訴えや表情から排泄のタイミングを捉えるように努め、なるべくご自分から発信してもらえる事を大切にしています。 ご自分でおトイレまで行ける方や、ズボンの上げ下ろしなど、出来るところはしっかりとやって頂き、出来ない部分を支援するよう心掛けています。</p> <p><b>(外部評価)</b></p> <p>「ウロウロしたり、足をゆすり始める」等、利用者それぞれの「トイレに行きたいサイン」を見逃さず、行きたいときにトイレに行けるような支援に努めておられる。トイレに誘導してもスムーズな排泄につながらない場合には、「職員の視線が気になるのか」「逆に一人が不安なのか」等、ご本人にとって排泄がし難い要因を探りながら、職員のかかわり方等についても、いろいろ試しながら支援に取り組まれている。トイレの場所が分かり易いよう、ドアは赤色で区別されていた。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b></p> <p>便秘が続く事でイライラしたり、やりたい活動(散歩や買い物など)に支障がでないように気を配っています。ご本人の様子をしっかりと観察して、顔の表情や仕草などから尿便にの可能性があると判断される際は速やかな誘導を行っています。 また、服薬をする際も、便意に問題があるのか形態(硬さ)に問題があるのか等アセスメントを行って医師に伝え、ご本人に合った服薬をお願いしております。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	<p><b>(自己評価)</b></p> <p>入浴日の間隔が空いているご利用者から、入浴がしたいかどうかを聞き取っています。実際の入浴では、温度をご利用者の好みに合わせたり途中でゆっくりと会話をする事で楽しい時間が過ごせる様配慮しております。下剤の服用状態やその他の健康状態にも気を配りながら支援しています。</p> <p><b>(外部評価)</b></p> <p>利用者一人ひとりの好みや流儀に合わせて、お湯の温度・入浴の時間帯・入浴にかかる時間・身体の洗い方・石鹸の種類等、一人ひとりに合わせて支援に取り組んでおられる。季節に応じてゆず湯等を楽しまれたり、お気に入りの職員と会話することを楽しみに入浴される方もいる。利用者の状態によっては、足浴しながらのシャワー浴をする方もいる。事業所には器械浴も備えておられるが、職員で、「快適に入れるかどうか」ということを検討した結果、現在は使用されていない。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p><b>(自己評価)</b></p> <p>ご本人の状態や希望によって、休息のタイミングや場所を考えています(ソファーなのか居室なのかなど)。また、居室でお休みする際は、明りや温度に気を配り、カーテンや空調の調整を行っています。夜間に、不安で眠れない方はしばらく職員が寄り添う事もあります。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医療ノートを作成し、往診と外来の記録を取っています。服薬に関しても変更があれば、副作用や用法の注意について医師からの説明を受けて記録に残し、職員間の申し送りに努めています。服薬の変更後は、ご本人の様子やバイタルサインに注意し、異常があれば医師や看護師に相談を行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日の家事を楽しみを持って行えたり、実際に行っていない方も見て参加できるような声掛けを工夫しています(途中でクイズを出したり談笑したり)。近所の散歩やお庭での日光浴など、本人の気分に合わせて楽しみ事を支援しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の天気や、ご利用者の状態(気分)に合わせてお買い物へ行って買いたいものを選んでもらったり、ご希望に沿って外出が出来るように提案を行っています。普段行けない所でも、誕生日やご家族が面会に来られた時などに、外食や馴染の場所へ行けるよう提案などの支援をしています。 (外部評価) 利用者と相談しながら、散歩されたり、近隣のスーパー・商店街への買い物に出かけたり、又、地区の運動会や季節ごとに花見や初詣等にも出かけておられる。ご家族と一緒に外出や外食を楽しむ機会も作っておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、ご本人がお金を管理する事が困難なケースが多いですが、買い物などは一緒に選んで一緒にレジに行きお金を支払う事であるべくご本人がお金を持たれている状況に近い形になるよう心掛けています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族から贈り物が届いた時には、電話でお礼を言ったり、お手紙をお出ししたりする事を支援しています。定期的に、事業所新聞をお送りします。また、ご本人のご希望を聞いて年賀ハガキを一緒に書き、ご家族やお友達にお出しするお手伝いをする事もあります。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 共用スペースと一緒に掃除したり、お庭の花を生けたりしています。ご利用者とスタッフが一緒に節分や七夕、クリスマス、お正月などを一緒に作ることもあります。入口の絵をご近所の方が提供して下さっています。 日頃スタッフは、ご利用者の様子を見て部屋の明かりや空調、テレビや音楽の音量を調整するようにしています。</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所は和風の造りで、玄関周りには灯ろうや庭石を配し、生け垣が巡らされている。季節が感じられるよう樹木や花が植えられており、周辺の自然な環境に馴染んでいる。菜園では夏野菜が実を付け始め、蛙の鳴き声も聞こえていた。玄関前には、喫煙したり一休みできるよう、椅子とテーブルが設置されていて、玄関には、庭のアジサイが生けられており、壁には婦人会の方が季節ごとに提供して下さる花の水彩画が飾られていた。又、職員の写真とプロフィールが掲示されており、利用者とのコミュニケーションのきっかけにもなっている。居間から続くベランダは、間口の広いデッキスペースになっており、時には利用者が洗濯物を取り込んでくださることもある。居間からは、通りがかりの人や農作業をする近所の方、四季の移ろい等が眺められ、利用者同士や職員との会話が弾むようだ。台所は、オープンキッチンで、音や匂いで食事の支度の気配が感じられ、利用者も食事一連の流れの中でかかわりやすくなっている。よく来てくださる民生委員の方や近所の方等の似顔絵入りのご近所マップ等が掲示されていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> ご利用者同士が談笑が出来たり、時にはリラックス出来るようなソファの配置に心掛けています。 食卓のテーブルも、気の合うご利用者同士と一緒に食事をしながら会話出来るような座席をミーティングなどで話し合っ工夫をしています。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 居室の壁にご家族の写真やハガキ、誕生日のお祝いの色紙を飾るなどして、なるべくご自分の部屋である事を意識出来るような環境作りに努めています。また、安心して睡眠がとれるようにご本人に合わせた寝具を季節に合わせて使用してもらっています。</p> <p><b>(外部評価)</b> 各居室の入り口には、職員手作りの表札がかけられており、ユニットによっては、ご本人の写真が掲示されていた。ご自身で居室の掃除を行う方には、「掃除機がいかいほうきがいかい」等を、ご家族とも相談し、用意されている。職員は、入居前に利用者のご自宅を訪問して、利用者の部屋の雰囲気把握に努めておられる。ご自宅で、家具に腕や身体をあずけながらご自分の力で移動されていた方は、居室内でも、ご自分の力で安全に移動できるよう家具を配置されている。自作の俳句・ビーズ絵やかたて表彰された楯、ご家族がレイアウトされた家族写真等も飾られていた。慣れ親しんだダンスや鏡台等を持ち込まれていたり、人形やこけしとともに化粧水やコトン等も置かれていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p><b>(自己評価)</b> ご利用者の各居室に表札やお写真などを貼って、ご自分でご自分の部屋が分かるように工夫を行っています。 ご利用者によっては、フロアから居室、おトイレまでをご自分で移動が来ています。スタッフは、出来るだけ手を出さず、出来ない所だけお手伝いをするように心掛けています。</p>	